

なぜ僕らは異世界に来てしまったのか

愉快的な月

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

主人公達が飛ばされてきた異世界、「ニルカナ」…

右も左も解らない主人公…

異世界という特殊な環境にて変わって行く主人公…

【相棒】と共に彩るストーリーが今始まる！

プロローグ

〈開幕〉

目次

プロローグ 　　〈開幕〉

ある日の昼下がり

俺、炎キ　　焰《えんき　　ほむら》は見知らぬ場所に居た…

「なんじゃこりゃあああああ！」

少し高い場所の様だ、下の方には賑わっている町の様な物が見えるが…

それ以外は見渡す限り草原、草原！草原！！

叫んでみるがその声はただっ広い草原へと吸い込まれるだけだった…

「なんなんだよ…俺は昼休みに屋上で飯食ってただけなはずなのに…」

俺がぼそりと呟いたその時、足元にぬるり、とした感覚があった…その瞬間、足元のぬるりとした物体から音が出た

いや、『鳴いた』のだ

俺が驚き足元の『それ』を見ると『それ』は嬉しそうにきゅい、と鳴いた

それは見た感じ30cm位の水色のゼリー状の生物だった

「…スライム…？」

そう、それはスライムと言えば想像しやすいだろうものだった

スライムって言ってもあれじゃないぞ？ドラ○エじゃなくて、もつと違うやつだぞ？なんつーかこう…ファンシーな見た目のやつ！どっちかつーと『スライムアビス』的な…

わかる人…居るかなあ…

…とりあえる

(…どうしようこのスライム…とりあえず害は無さそうだが…)

1. 攻撃
2. 魔法
3. 話してみる↑

4. 逃げる

「あ、あのー…」

「きゅ？」

「お前は…何者なんだ？」

「きゅー！きゅっきゅー！」

「どこから来たんだ？」

「きゅー」

「ここはどこなんだ？」

「きゅーきゅっ！」

…話を通じない…

当たり前と言えば当たり前なのか…？

「じゃあどうやったら会話ができるんだ？筆談できるか？いや、この世界で日本語が使えるはずないな…じゃあどうしようか…このスライムには俺の言葉を理解しているらしいし…」

「きゅ？」「コトン」

「ん？なんだそれは…腕輪…？」

なんか腕輪の様な物を置かれたぞ…？

「これをつければいいのか？」

「きゅー！」「コクコク」

頷いてるし着ければ良いのだろう…

着けてどうなるんだか…

「…ほら、着けたぞ…って…なんかヌメヌメしてるぞ!?お前それどこにしまった!?」

「もちろん胎内に取り込んでいましたよ?ご主人タマ！」

「…なんだ?この声…まさか…お前か？」

声の発信源は足元のスライムだと思われるが…

「そうですよ?ご主人タマ？」

「……………マジで?」

くこうして俺の日常は崩れ去っていきく
く新しい世界で新しい日常を送らなくてはいけないらしいく
そして…この先に待っている冒険が始まる…！
しかし…この時はまだ予想していなかった…
まさかこいつ（スライム）との出会いがあんなことになるとは…！

プ

ログ・END

t o b e c o n t i n u e d …